

寺社や墓地・歴史に関係したもの

みやのまえ・みやた・さんまいだ・ふるみやあと・やしきだ

集落や田畑の開墾に関係したもの

よざえもんびらき・そううえもんひらき・いぬまるひらき・ぜんうえもんひらき・さんばんわり・じごわり・おさわり・ひがしおさわり・

開墾時の広さに関係あるもの

ごたんだ・ろくたんだ・はちたんだ・はちちようぶ

河川洪水に関係あるもの

どのうち・どいばた・

作付けされた物に関係したもの

ちやのきじま・

集落に関係あるもの

やしはし・

分けられないもの

しんばた・はだり・はたけだ・はだれ・しだら・おおぞう・かんじよ・かながそ・ちようきだ・つちくじり・まこむき・やざ・おさだ・ひわたし・ひら

え・くろぼこ・かます・すんだ・なかねこ・ばしりだ・つちご・だいまる・

ふるだ・うねだ・おたまり・なかだ・うちはま・そとはま・

等が数えらるし、読む人によつては懐かしい、名前の田畑であろう。

公德箱の話

大正末期か昭和の初め頃、誰が考えた事かは分らないが、県道筋の一劃に「公德箱」が置かれてあつた。

昔の県道は、一間半の幅で、砂利を敷いた道であつたし、あちらこちら馬車が通るので馬の糞が落ちていたし、馬車の鉄輪の轍が、鉄道線路のように、二本のなつて付いているのが当たり前であつた。

またその道の通行人もせいぜい藁草履か、跣で歩くのが普通で靴を履いて通る人は「旦那さん」「奥さん」は下駄履きであつた時代の話。

硝子や釘などの危険物は何処に埋まつているか分らない。

「公德箱」は大抵、織り屋の『人絹箱』を流用して置いてあり、横に「公德箱」と麗々しく書いてあつた。

子供たちは、硝子の欠けや錆び釘を見つけたら、大発見したように硝子欠けや古釘を「公德箱」に入れるのが習慣であつた。

道路工場の爺さんに褒められたのが、子供心に嬉しかったもんだ。